

1 得点分布及び小問ごとの正答率

表1 得点分布

得点	690人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	76	11.1
80～89	174	25.2
70～79	151	21.9
60～69	115	16.7
50～59	82	11.9
40～49	53	7.7
30～39	22	3.2
20～29	16	2.3
10～19	1	0.1
1～9	0	0.0
0	0	0.0

表2 小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	問1	位置	82.8
		都市	73.0
	問2	81.2	
	問3	72.0	
	問4	74.3	
	問5	73.2	
	問6	あ	89.4
		い	82.9
	問7	86.7	
	問8	85.8	
	問9	79.4	
	問10	71.4	
	問11	67.9	
問12	70.5		
小計		77.0	
2	問1	93.2	
	問2	92.9	
	問3	70.7	
	問4	57.0	
	問5	43.3	
	問6	79.7	
	問7	76.5	
	問8	44.8	
	問9	24.5	
	問10	80.7	
	問11	50.7	
	問12	64.7	
	問13	78.0	
小計		62.5	
3	問1	81.7	
	問2	72.6	
	問3	77.1	
	問4	67.0	
	問5	79.3	
	問6	85.5	
	問7	72.8	
	問8	7.8	
	問9	74.2	
	問10	78.3	
	問11	68.1	
	問12	83.6	
小計		72.2	

2 分析結果の概要

分野別の正答率では、**1**の地理的分野と**3**の公民的分野が70%台と高く、**2**の歴史的分野が60%台と比較的低い結果となった。歴史的分野と公民的分野の中には、正答率が極端に低い小問もみられた。

出題形式別にみると、地理的分野において、資料を活用した小問の多くが、高い正答率となっている。歴史的分野において、我が国の歴史の大きな流れに関する記述式の小問は、基礎的・基本的な内容であるにもかかわらず、正答率が低い結果となった。

大問別の正答率の経年比較は、次の通りである。

大問	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
1 (主に地理的分野)	56.3	58.3	61.4	68.9	77.0
2 (主に歴史的分野)	52.6	51.5	50.8	64.1	62.5
3 (主に公民的分野)	52.6	57.7	60.7	66.6	72.2

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	出題のねらい	主な観点			備考
			知識理解	思考判断	技能表現	
1	問1	位置 愛知県の県庁所在地の位置を地図上で特定できる。 都市名 愛知県の県庁所在地の都市名を知っている。				
	問2	他県と比較しながら，本県の産業の特色を判断することができる。				
	問3	地図上の距離と縮尺から実際の距離の計算ができる。				
	問4	地形図から土地利用のようすなどを読み取ることができる。				
	問5	日本の伝統産業の特色を知っている。				
	問6	季節風の特色を地図上で理解している。				
	問7	イギリスを中心に，ヨーロッパなどの地理的特色を理解している。				
	問8	南アメリカ大陸の形状と赤道の位置を知っている。				
	問9	日本とアフリカの国の時差の計算ができる。				
	問10	日本とアメリカの貿易の特色を資料から判断できる。				
	問11	三角州の特色と景観を理解している。				
	問12	中国への日本企業進出の理由を資料から判断できる。				
2	問1	卑弥呼や邪馬台国について理解している。				
	問2	聖徳太子の代表的な政策を理解している。				
	問3	平安時代後期の浄土信仰の特色を理解している。				
	問4	鎌倉時代に制定された御成敗式目を理解している。				
	問5	応仁の乱以後の武家社会の変化を理解し，表現できる。				
	問6	鉄砲が伝来した頃，ヨーロッパ人のアジアへの来航が多くなった背景を理解している。				
	問7	元軍襲来の時期を年表中で判断することができる。				
	問8	鎖国が完成した時期の対外関係の内容を理解している。				
	問9	開国後の日本経済の特色を理解している。				
	問10	日露戦争後の講和条約として，ポーツマス条約が締結されたことを知っている。				
	問11	小村寿太郎が改正した不平等条約の内容を理解している。				
	問12	戦後，有権者数が急激に増加した理由を説明することができる。				
	問13	戦後，日本が国際社会に復帰するきっかけとなった背景を理解している。				
3	問1	国会の二院制の意義と目的を理解している。				
	問2	首相と地方の首長の選出方法の違いを理解している。				
	問3	国に依存している地方財政の財源を知っている。				
	問4	憲法が保障している基本的人権の内容を理解している。				
	問5	国民の知る権利の意義と目的を理解している。				
	問6	消費者保護の目的を理解し，そのための法律名を知っている。				
	問7	株式会社が株式を発行する目的を説明することができる。				
	問8	資料から問題点を判断して，年金保険を特定することができる。				
	問9	間接税の具体例を知っている。				
	問10	グローバル社会ということばの意味を理解している。				
	問11	国際連合の安全保障理事会について理解している。				
	問12	日常生活の中の温暖化対策を理解し，表現できる。				

基礎的・基本的事項の設問には，備考欄に が付してある。

4 標準解答及び考察

1

標準解答

問1	位置	都市名	名古屋市	問2	工	問3	約 1.5 km	問4	ウ
問5	伝統		問6	あ	い				

考察

愛知万博の開催を機会に、愛知県や身近な地域、宮崎県について調べる学習を通して、日本の地域構成や本県の特色などに関する地理的事象の理解や資料活用能力などをみる問題である。

本県の産業などの特色を他の都道府県と比較する問2は、正答率が80%を上回り、本県に関する理解や資料活用能力が十分に定着していることが分かる。地図の縮尺に関する問3も、求める数値が地図上の実際的な距離であったために70%を上回ったが、誤答の中には「150km」と解答した例もあった。

指導に当たっては、時事的な内容などの様々な社会的事象を取り扱って、興味・関心を高める工夫を行いながら、地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることが大切である。また、地形図の読み取りにおいて、地形図から関心のある地理的事象を発見させながら、地域的特色をとらえさせ、それらを発表させる場を設けていくことが大切である。

標準解答

問7	ウ	問8	ア	問9	6 時間	問10	工	問11	三角州
問12	(例) 中国には安くて豊富な労働力があるから。								

考察

万博の開催国や他の国と日本との関係を調べる学習を通して、世界と比べた日本について理解力、思考力・判断力などをみる問題である。

時差を問う問題は、これまでの学力検査で低い正答率にとどまることが多かったが、問9の正答率が約80%であることから、時差に関する基礎的・基本的な内容が十分に定着してきたことが分かる。問11の正答率は、67.9%と地理的分野の中では比較的低く、誤答の大半は「扇状地」であった。問12も70.5%で比較的低い。資料を活用して的確に判断したり、表現したりする力がやや不足していることが分かる。

そこで指導に当たっては、統計資料を読み取らせる場を設け、その内容をまとめさせたり、発表させたりする活動を日常的に取り入れることが大切である。

2

標準解答

問1	ウ	問2	工	問3	イ	問4	御成敗式目(貞永式目)		
問5	(例) 下剋上の風潮が広がり、守護大名を倒し、実権を握る戦国大名が各地に登場した。								
問6	ア	問7							

考察

歴史学習の発表会で、歴史上のできごとや人物に関する資料を作成して発表する学習を通して、歴史上のできごとの大きな流れや歴史に関する重要事項の理解力、資料活用能力・表現力などをみる問題である。

問4の正答率は57.0%と歴史的分野の中では比較的低く、誤答例として「武家諸法度」が多くみられた。資料から時代を特定し、的確に判断する力がやや不足しているのが分かる。問5も43.3%で、歴史的分野の中では比較的低い。我が国の歴史の大きな流れを理解した上で、その内容を的確に表現する力が不足していることが分かる。

そこで指導に当たっては、歴史の大きな流れや各時代の特色、各時代の人物を取り上げる中で、その人物の役割や生き方を具体的に理解させ、各時代のできごとを多面的・多角的に取り扱うなど、学習内容への興味・関心を高める指導を工夫することが大切である。

標準解答

問8	ウ	問9	イ	問10	日露戦争	問11	関税自主権がない
問12	(例)有権者の資格が(25歳以上の男子から)20歳以上のすべての男女に与えられたから。						
問13	イ						

考察

近世から近代までの対外関係や戦後の民主化，国際社会への復帰に関して，それぞれの時代の基礎的・基本的な内容を中心に，理解力，思考力・判断力，資料活用能力・表現力をみる問題である。

各時代の対外関係の特色を判断する問8，問9，問13の正答率が低く，基礎的・基本的な内容の定着が不十分であることが分かる。また，問12のように，グラフの急激な変化から戦後の民主化の政策を読み取り，その内容を的確に表現する力が不足していることが分かる。

そこで指導に当たっては，グラフや統計資料を活用して歴史的事象を考察させる際は，その資料の中で大きく変化している箇所や特色を読み取らせることが大切である。また，その要因等を生徒に説明させる場を設けていく必要もある。

3

標準解答

問1	イ	問2	(例)内閣総理大臣は国会から指名され，地方公共団体の首長は住民から直接選挙で選ばれる。				
問3		問4	ウ	問5	エ		

考察

日本の政治に関して課題を設け，調べる学習を通して，国と地方の政治の関連で，政治に関する重要事項や課題などについて，理解力や資料活用能力・表現力をみる問題である。

国の政治や地方自治の問題において，基本的人権を問う問4の正答率は67.0%と比較的低いが，全体の正答率は概ね70%台であり，基礎的・基本的な内容が定着していることが分かる。

指導に当たっては，国と地方の政治を関連させ，公正な世論の形成や政治参加の重要性を理解させるための指導を充実するとともに，基本的人権の保障の内容のように，多岐にわたるものは，表や図に整理してまとめさせる作業を取り入れながら，定着を図ることが大切である。

標準解答

問6	製造物責任法(PL法)			問7	(例)(多くの)資金を得るため。		
問8	年金	問9	ア	問10	エ	問11	ア
問12	(例1)照明や電気器具のスイッチをこまめに消すようにする。 (例2)外出する時はバスや電車，自転車を使うようにする。						

考察

日本の経済に関して課題を設け，調べる学習を通して，消費者問題や社会保障に関する重要事項，平和や環境に関する国際的な課題について，理解力，思考力・判断力，資料活用能力・表現力をみる問題である。

正答率が極端に低い問8は，時事的な内容である。「保険」という出題形式をとったために，「介護」という誤答が多くなる結果となった。問12の正答率は高く，資料活用能力・表現力だけでなく，地球温暖化の解決に向けて，生徒の関心・意欲を引き出す指導も十分に図られていると思われる。

指導に当たっては，時事的な内容と学習内容を関連付けて指導し，その定義や問題点を的確に理解させる工夫が必要である。また，公民的分野の学習を通して，よりよい社会を築いていくための，自己の在り方生き方を表現させる場を設けることも大切である。